



なぜ、なにを大切に

副校長 神田 雄二

空はなぜ青く、夕日はなぜ赤いのか。空を見上げ、私は小学生の時ふとそんなことを思いました。科学はその問いに答えてくれました。難しい話になりますが、太陽の光というものは、虹の七色から構成されています。ところが、その七色の光は、厚い大気圏を通り抜ける間に、空気中の窒素や酸素の分子に当たり、あちこちに飛び散らせるという特徴があります。これを難しい言葉でレイリー散乱と言うそうです。この散乱率の大きいのが青や緑の色で、その混合色である水色が空の色になるそうです。一方、月面から空を眺めると空は青ではなく、夜の空のように黒くなっているのを写真やテレビで見たことがあるかと思いますが、これは月には大気がなくこの現象が起きないからなのです。

次に夕日がなぜ赤いのか。それは空が青い理由と同じで、夕日というのは、太陽が地平線近くになり、太陽の光が大気の間を通過する距離が長くなります。そうすると、青い光は拡散されてしまい赤や黄色・オレンジ色が強調されて目に届くからです。朝焼けも同じ理由で、朝なのに夕日のように見えてしまうのはそのためです。

空はなぜ青く、夕日はなぜ赤いのか。この問いの答えは科学で解明されました。地球上に起こる様々な現象の全てではありませんが、人類が科学を発達させ究明してきたことで判明した一つが、空の色の変化ではないでしょうか。いろいろな事を学び、知識を得るということは楽しいことですが、それを知ったということは、それほど大きな意味はないように思います。最も大切なことは、なぜ、どうしてという疑問をもち、不思議なことに目を見張り驚きの思いをもつこと、興味・関心を高めて、様々な出来事に好奇心をもつことではないかと考えます。

子どもたちは、「なぜ」、「どうして」という発問をよくします。それに対して大人はすぐに答えようとしたり、分からないと焦ったりしますが、分からないことは分からなくてもいいと思います。そこで大切なことは、子どもと一緒に考えてみることで、じっくり物事を探究するために試行錯誤していくことではないでしょうか。子どもの知識は、大人と違い中途半端な部分があります。それでもその子が今まで培い学んできた知識をいかし、いろいろ考えたり思いを巡らしたりする姿勢を、励ましてあげることこそ重要ではないかと思っています。



時代が変わっても子どもの探究心は変わりません。身の回りの中にある、ちょっとした疑問が生まれたときに、なぜなのだろうと考え、動こうとする。そうした体験をたくさん積み重ねていくことは、とても大きな意味があると思います。